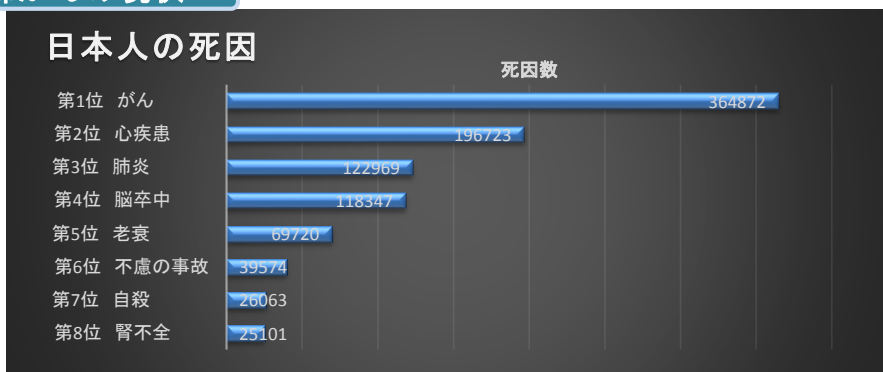




低線量肺がんCT検診



①肺がんの現状



●2013年の死亡数が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位	
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸8位
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸9位
男女計	肺	胃	大腸	肝臓		大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸7位

日本人の死因第1位は『悪性新生物(ガン)』です。

そのうち、肺がんによる死亡者数は増加傾向にあります。(男性1位・女性2位)

肺がんは『タバコを吸う人の病気』のイメージが強いですが、近年わが国の男性肺がんの3割・女性肺がんの8割はタバコの吸わない人に発症しています。

⇒日本人の肺がんはタバコを吸ったことのない人でも十分注意が必要となります。

現在行なわれている肺がん検診は、胸部単純X線検査と喀痰細胞診を併用するものが一般的です。

しかし、この検査では早期の小さなガンまで発見するのは難しいのが現状です。

そのため近年、より小さい病変を検出することができる、低線量肺がんCT検診を行なう施設が増えています。

②低線量肺がんCT検診の目的・特徴

目的は、肺がんを**早期に発見**することです。

すなわち、転移を起こす前に発見し、適切な治療を行ない、肺がんで死亡しないようにすることです。

特徴は、胸部単純X線検査では近接する多臓器(心臓・血管など)と重なり、小さな病変を見つけるのが困難ですが、CT検査では断面像のため、重なりがなく、小さな病変も発見できます。

検診で行なう胸部単純X線検査で見つかる肺がんの大きさは一般的に約2cm以上と言われております。

しかし、CT検診では**1cm以下の肺がんを発見**することが可能です。

このように低線量肺がんCT検診では、従来の胸部単純X線検診と比較して、より小さく・より早期の肺がんを発見できることが、国内外の研究で報告されています。**(発見率は5~10倍程度高い)**
発見された肺がんは早期の比率が高いため、その後の治療成績も良好とされています。

CT検査はより小さい病変を見つけることが出来ますが、胸部CT検査は放射線被ばくの面から検診(健康な状態)には望ましくないとされています。

このことを踏まえ、当院では放射線量を通常胸部CT検査の**1/10程度のX線量**でCT検診を行なっています。



低線量肺がんCT検診のご案内



Apuilion PRIME
(東芝メディカルシステムズ)

最新鋭マルチスライスCT装置で早期発見を！

当院では、80列マルチスライスCT(東芝製)を導入しております。通常の胸部X線検査(レントゲン検査)で見つかる肺がんの半分以下の大きさ(1cm以下)の病変を、CT検査では発見することも可能です。

低線量での検査実施が可能

最新被ばく低減技術⇒逐次近似応用再構成法(AIDR 3D)による最大の特徴が

画質を維持したまま、放射線量を低減できること。

⇒ 当院では従来の1/10以下の被ばく線量で検査が可能に！

ストレスの少ない、検査内容

検査方法

- ①検査台に仰向けに寝ていただきます。
- ②装置の息止め合図にあわせて、息を止めていただきます。(約10秒程度)
- ③検査終了です。

以上のように、短時間で終了し、体位変換も少なく、ストレスの少ない内容となっています。また、検査前に注射や薬による処置はありません。



特に以下のような方にお勧めいたします

- ★喫煙歴のある方
- ★50歳以上の方
- ★近親者にがん既往がある方
- ★せき・痰・胸痛のある方、血痰のある方

ご質問、ご不明な点は健診受付までお願いします